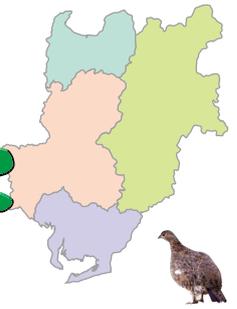




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



局幹部と新規採用者

中部局に新たに5名が仲間入り

未来を担うフレッシュマンに期待!!

(P 9に関連記事)

主な項目	○中部森林管理局長交代.....	P 2
	○各地からのたより	P 5
	○シリーズ「森林官からの便り」	P 8
	○シリーズ「ご当地自慢」	P 10

中部森林管理局長交代



新局長 奥田 辰幸

奥田新局長着任あいさつ

この度、中部森林管理局長を拝命しました奥田と申します。皆様方と一緒に仕事ができることを光栄に、かつ嬉しく思います。

農林水産省においては、林大臣が「攻めの農林水産業」をキャッチフレーズに各種施策を展開していますが、国有林は一般会計化によりまさに守りから攻めに転換したと認識しています。そうした意味で中部局、ひいては国有林野事業の存在意義を高めるための取り組みについて所信を述べたいと思います。

一点目は、「公益重視の管理経営の一層の推進」です。木曾地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取り組みの検討が進められていますが、インディアン・イロクォイ族の言葉で、「この大地は七世代後の子孫たちから借り受けたものである」というものがあります。今、森林を預かる我々の英知を結集して、利用と保存と復元のバランスをとりながら、より良い形で次代にバトンタッチ

していききたいものです。林野庁でも中部局の成果を元に「保護林制度全体の見直し」を行う予定であり全国をリードする取り組みにしたいと考えています。

二点目は、「森林・林業再生への貢献」です。近年、人工林資源は充実し、森林・林業再生への期待は高まっています。林業再生のためには、国産材の需要拡大が重要ですが国有林は自ら地べたを持つ管理経営しているため、国産材需要拡大の必須要件である「質・量・価格の安定供給」に有利です。国有林で作ったパイプに民有林も参画いただき国産材の需要拡大を現実のものとしていきたいと思えます。林業再生のもう一つの課題は、施業の低コスト化です。コンテナ苗を使った「伐採から造林までの一貫作業システム」の確立による造林・保育コストの削減がその答えです。

国有林が先頭に立つてこうした取り組みにチャレンジし、その成果を民有林に普及することによって森林・林業の再生を牽引していきたいと思えます。失敗しても結構です。失敗したら、なぜ失敗したかをきちんと分析し、その対策を次のチャレンジに活かせばよいと思えます。何もしないで立ち止まっていれば失敗もしない代わりに進歩もなく世の中に何も貢献できませんし、それでは国有林の存在意義が無いということになります。全職員がこうした意識を持つ森林・林業の再生のために取り組むことが必要で

す。

三点目は、綱紀の保持、労働安全の確保です。綱紀の保持に関しては、当たり前ではありますがやることがつきます。労働安全も同じです。ルールをしっかり守った上で自らの安全と健康は自ら守ることが基本です。つまらない事件や事故で仲間を失いたくないので高い意識を持ってそうしたことが起こらないよう取り組んでください。

「明るく、楽しく、前向きに。」皆様方が中部森林管理局で仕事できてよかったと思えるように私も努力します。職員一人ひとりがそうした意識を持って努力いただくことによりより良い職場にしていきたいと思えますのでご協力をお願いいたします。

◆奥田局長の略歴

生年月日 昭和34年1月16日
本籍 福岡県
略歴 九州大学農学部林学科卒

(昭57・3)

昭57・4 林野庁林政部林政課に採用後、大阪営林局経営部計画課・亀山署、愛知県北設楽郡稲武町、林野庁林産課・木材流通課を経て

平2・8 経済局国際部国際企画課国際専門官

〳4・8 熊本局八代営林署長

平6・8 熊本局企画調整室監査官(労務)

〳7・8 熊本局総務部職員厚生課長

〳10・4 林野庁業務部業務第一課課長補佐(造林種苗班担当)

〳12・4 鹿児島県林務水産部林業振興課長

〳14・4 林野庁林政部木材課課長補佐(総括)

〳16・4 林野庁国有林野部経営企画課課長補佐(総括)

〳18・4 大分県農林水産部審議監(林政担当)

〳20・7 林野庁国有林野部業務課技術開発調査官

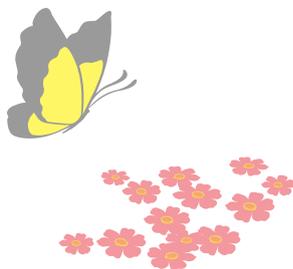
〳21・9 林野庁国有林野部職員・厚生課長

〳23・5 独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター審議役

〳24・7 林野庁国有林野部業務課長

〳25・4 林野庁国有林野部経営企画課長

〳26・4 中部森林管理局長



新任幹部あいさつ



新森林整備部長
中村 道人

この度、四月一日より森林整備部長を勤めさせて頂くことになりました。豊かで多様な自然、優れた景勝地、歴史ある観光資源、伝統ある文化に恵まれ、森林・林業や木材産業に大きな期待がかかる日本のご真中のこの地において仕事をさせて頂いていただきますことを光栄に思いますとともに、大変楽しみにしております。

(3) 平成26年4月

さて、自己紹介をさせていただきます。出生の地は岩手県下閉伊郡岩泉町です。北上山地の更に山奥、龍泉洞という鍾乳洞があるところで、かつては営林署のある町でした。幼少時は、山で木登りや山菜採り、栗拾いなどをして遊びましたが、現在は、山や川ではなく海での釣りを趣味にしています。高校からは親元を離れ、盛岡市や北海道・札幌市で楽しい学生時代を過ごしました。

改善局では場整備、国土庁で全総計画、独立行政法人水資源機構でダム開発、広島県庁で林務行政や水産行政に携わらせていただき、いろいろな経験をさせていただきました。林野庁では、林業白書の作成、国有林の改革、木材分野での「国産材新流通・加工システム」の企画・立案などを担当し、直近では、先進的的林業機械の開発、木質バイオマス利用技術の開発、福島第一原発の事故に伴う森林除染等放射性物質対策の技術開発などを担当しました。入庁以来、人事の要望書には「何がしたい」というよりは「いろいろな経験をしたい」と書き続けてきましたが、振り返ってみると思いに沿った道を歩んできたと言えるのかもしれない。

◆中村森林整備部長の略歴

生年月日	昭和37年4月23日
本籍	岩手県
略歴	北海道大学大学院農学研究科林学専攻修士課程(昭63・3)
昭63・4	林野庁業務部経営企画課に採用後、前橋局、林野庁林政部企画課、国土庁を経て
平10・4	林野庁業務部経営企画課企画官
〳10・8	林野庁管理部職員課企画官
〳12・4	大分西部森林管理署長
〳14・4	林野庁林政部木材課課長補佐(木材流通班担当)
〳17・4	独立行政法人水資源機構中部分社審議役
〳19・4	林野庁国有林野部経営企画課課長補佐(企画班担当)
〳21・4	広島県農林水産局林業水産振興部長
〳24・4	林野庁森林整備部研究・保全課技術開発推進室長
〳26・4	中部森林管理局森林整備部長

お別れにあたって
前局長 鈴木 信哉
この度の異動で「独立行政法人森林総合研究所」に向向することとなりました。振り返ってみますと、平成二十四年七月の着任以来、一年九ヶ月の歳月が流れており、この間、国有林野事業は、平成二十五年四月一日に、昭和二十二年の林政統一以来、約六十五年間続いた特別会計に終止符を打ち、一般会計として新たなスタートを切りました。
このような時期に、局長の任を拝命し、一般会計化の意義と国有林の果たす役割を念頭におきながら、一体何が出来るかと考え、森林・林業の再生や地域振興等のために、それぞれの地域がその特色を生かした政策の実現に向け、各種取り組みを進めて参りました。木曾ヒノキをはじめとする「木曾谷の温帯性針葉樹林」を伝統建築物の維持・保存などと調整しつつ保全する仕組みづくり、市町村森林整備計画の策定を支援する地域森林総合監理士(通称「フォレストアスター」)の育成、木材価格急変時の「国有林材の供給調整」、「コンテナ苗」を活用した生産・造林一貫作業システムの導入と普及、木曾谷の高齢級で良質な人工ヒノキ(高国木曾ひのき)(マルコウ マルコク キソヒノキ)のブランド化、「コンクリート型枠合板の国産材化」、食害が高山帯にまで及んだ「ニホンジカ対策」等



の貴重な取り組みを行うことができました。

また、充実するカラマツ資源を観光の視点から促進する「カラマツ黄葉写真コンテスト」、「カラマツ新緑写真コンテスト」、木材のエネルギー利用を喚起する視点から「薪セミナー」、子供達で賑わった「夏休み子供ふれあいデー」、伝統工芸品の良さを情報発信できた「桶・樽サミット」の開催など、いずれも楽しい思い出であり、また、地域の皆様にも喜んでいただけたのではないかと考えています。

今後、国有林が「今何をして、何をしようとしているのか」地域の皆様に理解していただく取り組みが重要と考えます。

これから、一般会計としてスタートを切り二年目を迎えます。今後とも、国有林の使命を達成するために何をすべきかを考え、管内の地方公共団体、関連する業界と緊密に連携しながら、公益重視の管理経営の一層の推進のための施策づくり、我が国の森林・林業の再生や地域の活性化のための取り組みの推進など、我が職場が地域の森林・林業をリードしていく存在となるよう、全職員の皆様がそれぞれの持ち場で心身の健康に十分留意しながらご尽力いただくことを切にお願い申し上げます、お別れの挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

お世話になりました

前森林整備部長 松本 寛喜

四月一日付けの異動で森林総合研究所に勤務することになりました。中部森林管理局での一年九ヶ月の勤務では、皆様には大変お世話になりました。十三年ぶりの局勤務でしたが、お陰様で大変有意義に過ごすことが出来ました。

振り返ってみますと、まずは一般会計化に向けた諸準備と、一般会計化以降は民国連携など新たな取り組みへの対応がありました。後者としてまず取り組んだのは、事業実行ベースでの技術の開発と民有林への普及であり、伐採と造林の一貫作業システム（北信署）や、国産材型桢合板を用いた治山事業の実証的实施（中信署）がその代表例だと思います。これらの取り組みの実施にあたっては、局署の皆様はもとより、信州大学や請負業者等の方々にも多大なるご協力を頂きましたこと、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

次いで対応したのが、平成二十四年度補正予算の執行と、これに係る入札不調等でした。近年稀に見る規模の予算であったことと、時期的に一般会計への移行と重なったことから、事業実行に携わる局署の皆さんには大変なご苦労をおかけしたと思います。また、業界団体の方々にも大変ご協力頂きました。本当に

有り難うございました。

こうした中、平成二十六年度の当面の課題は、何と言っても事業の早期発注と、民国連携では事業実行面での情報共有だと思えます。特に後者については、長野県、岐阜県ともに大型の木材加工施設やバイオマス利用の稼働が間近に控えていることから、需要と供給の間、更には供給者間での情報共有が益々重要となります。後者の情報共有に向けた取り組みは既に始まっていますが、今後は、地方事務所・署単位での情報共有が期待される所です。

ちなみに、任期中に行けなかった（心残りの）箇所を幾つか。一つ目は雲ノ平で、あれだけの秘境で NPO、大学と連携して自然再生事業を実施しているとは驚きの一言です。二つ目は三峰川最源流部にある造林地で、余りに奥地過ぎて行きかけた途中で断念した経緯があります。そして最後は尾上郷と六厩川で、広葉樹の宝庫であった荘川地区には、それだけで特別な想いがあります。

最後になりましたが、一年九ヶ月間本当にお世話になりました。有り難うございました。



平成二十五年度 森林・林業社会貢献活動に 対する局長感謝状贈呈式

【総務課】平成二十六年三月二十六日、中部森林管理局局長室において、「平成二十五年森林・林業社会貢献活動に対する局長感謝状」の贈呈式が行われました。

この感謝状は、地域の森林整備や防災活動にボランティアとして貢献した企業、団体等に対して送られるもので、防災協力活動部門、森林づくり部門及び地域連携活動部門の三部門から成り、局長感謝状と森林管理署長等感謝状があります。



感謝状贈呈式の様子

(5) 平成 26 年 4 月

二十五年度は、企業六十四、団体二十八の計九十二の応募が有り、厳正な審査を行った結果、四十の企業・団体に感謝状を贈呈することとなりました。このうち、特に顕著な功績があった十六の企業・団体に対して、局長感謝状が送られました。

中部森林管理局としては、これからも企業等のボランティア活動を応援し、国民の森林づくりを推進するとともに、地域振興に寄与できればと考えています。



局長感謝状を贈呈された皆さん

川下側への 情報発信の取り組み

「名古屋事務所」名古屋事務所では、二百万人都市名古屋の立地条件を活かし、上流地域と下流地域の連携強化を目指し、森林・林業等に関する情報発信に取り組んでいます。名古屋市を含めて愛知県の各地域は、その上流にある長野県や岐阜県の森林を水源としており、上流地域の大切さややすらしさを知って頂くことは重要と考えています。

この度、名古屋林業土木協会の皆様方が、このような取り組みにご賛同頂き、協会建物外壁に情報発信のための木製の掲示板を設置されました。掲示板は、木



設置された掲示板

材の良さもアピールできるよう東濃ヒノキを使用し、一部は防腐・変色防止の液体ガラス処理も行われています。

掲示板は、近隣の保育園児や通勤・通行者等、多くの人の目にとまる位置にあり、日頃は見ることができない川上側の森林の様子を知ることができるなど森林・林業、木材利用等の情報発信の場としてふさわしいものとなっています。



子供たちからは歓声が

今回は局が実施した「カラマツ新緑写真コンテスト」入選作品と映画「wood job」ポスター及び地域共催のイベント「みどりのフェスティバル」情報を掲示しました。通行者からは、「木の看板がとてもきれい」、「こんな景色を自分の目で見てみたい」といった感想や、散歩する園児達の「わあ〜きれい〜」など歓声もあり、みなさん立ち止まって見入っています。

名古屋林業土木協会は、国土保全はも

各地からのたより

とより地域振興や社会貢献へ寄与するとの観点から、森林・林業の再生、治山・林道事業の推進、木材利用推進にも取り組むとしており、名古屋事務所としても引き続き適切な連携を通じた情報発信を協働していく考えです。

明治神宮復興写真パネル

中津川市に贈呈

〔東濃署〕三月十七日、中津川市役所において、明治神宮復興造営工事（昭和三十三年本殿遷座祭）に関する写真パネル九枚が、東濃森林管理署長から中津川市長に贈呈されました。



間島東濃署長（右）から青山中津川市長へ贈呈

この写真は、中部森林管理局が、保有する国有林野事業に関する古い写真・映像資料について、デジタルアーカイブ化を進めている作業の中で見つかった写真です。明治神宮の社殿は、昭和二十年四月の空襲で焼失し、その後、国内外の寄付などによって、昭和三十年から三十三年にかけて復興造営工事が行われました。工事に用いられた木材の多くが裏木曾国有林から伐採されており、地元自治体である中津川市にも縁のある、歴史的な資料ではないかと考え、これらの写真群のうち九点について拡大してパネルを製作し、中部森林管理局から中津川市に贈呈することにしたものです。

当日は、東濃森林管理署長から青山節児中津川市長に、パネルが贈られ、市長からは、「中津川市の木曾ヒノキが、よく知られている伊勢神宮だけでなく、様々に役立つてきたことがわかる資料をいただき大変ありがたい。市民にとって誇れる資源であることを広報誌等で紹介していきたい。」と感謝の言葉をいただきました。

パネルは早速、市役所ロビーに設置され、三月末まで展示していただきました。訪れた市民の方々は、昭和三十年に行われた御用材の斧入れ式（木本祭）や新宿駅（東京）に到着した御用材、横綱を先頭にした御用材御木曳の様子、御本殿扉の加工作业等のパネルに興味深く見入り「これは中津川市の誇りだ。」



中津川市役所に展示されたパネル

との声が聞かれました。
中津川市によれば、パネルは今後五月三日から開催される「つけち森林市」の会場で展示するなど、広く市民の皆さんに伝えていただくとのことです。

信州大学山岳科学総合研究所 打ち合わせ会議

「中信署」三月十八日、松本市旭にある国立大学法人信州大学理学部において、信州大学山岳科学総合研究所（以下「研究所」という）との打ち合わせ会議を実施しました。この会議は、我が国の学術の振興及び環境保全をはじめとする森林の多面的機能の発揮に寄与するとともに、地域に貢献することを目的として信森林管理署と研究所の両機関が森林及び山岳分野に係る研究教育、技術開発等の相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施するため、平成二十一年七月二十七日に連携・協力に関する協定を締結し、毎年開催しているもので今年で五回となりました。

今回、今年度の活動報告として、署からは本年度の取組状況（主要事項、ホームページの更新など）を説明し、研究所から、ニュースレターの紹介、研究者から①上高地・明神地域における湧水の特性②日本アルプスにおける二〇一三年の越年性雪渓分布③白馬岳の山火事跡地における四年間の植生回復の三課題について

の発表が行われました。



植生回復の発表



会議の様子

の発表が行われました。

参加した当署の職員から、現在行われている事業への応用として、「湧水に含まれる成分分析に加え、地上水と浸透水の温度差による流入経路の識別化等が可能か」「毎年の気温の変化と積雪量の因果関係はあるのか」等、多くの質問がされ、充実した打ち合わせ会議となりました。

最後に今年度末で研究所の所長を退任される理学部鈴木啓助教授から、白馬岳の山火事跡地における植生回復調査、航

空写真の貸与等数々の森林管理署の協力に対してのお礼と、また、来年度から信州大学の改革にあわせて信州大学山岳科学研究所に名称を変更し、南箕輪村にある農学部へ移る旨の報告がされました。なお、研究所が変更しても引き続き協定の主旨を踏まえ、連携・協力をしていくことを再確認しました。

職業訓練のための木曾産木材の供給と利用等に関する協定

〔木曾署〕三月二十六日、長野県上松技術専門校において、上松技術専門校、木曾官材市売協同組合及び木曾森林管理署の三者で締結する「職業訓練のための木



協定書調印式で挨拶する高鳴木曾署長



協定書締結後握手を交わす代表者

曾産木材の供給と利用等に関する協定書」の調印式が上松町立会の下に行われました。

長野県上松技術専門校は、木工科と木材造形科があり、全国から約四十名の生徒が入校し、一年間の家具製作等に必要技術を習得し、木材関係の工場等へ卒業生を送り出している職業訓練校です。木工等の実習にはクリ、ナラ、サクラ等の広葉樹を使用し、家具製作などの基礎を学んでいます。

同校の実習では、これまで木曾谷から産出される木材ではなく、他の地域の卸売業者から製材品を購入して使用されており、前鈴木局長が同校を視察した際に局長から「実習用教材として国有林から

産出される木材を供給できないか。」との提案を受けて、同校や同組合と調整し、国有林材の供給と加工のほか、林業や木材加工の学習フィールドの提供などを内容とする協定を締結することになったものです。

調印式においては、長野県上松技術専門校の大屋校長から協定に至った経過報告と「本協定により、地域が育んできた産業と歴史を学び、次代への木工に係る後継者を地域の力で育てていくという意義ある協定が締結できた。」と挨拶があり、当署の高鳴署長からは「この協定を通じ、木材の性質や森林・林業に対する理解が深まり、地域の木材産業や伝統工芸を引き継ぐ多くの人材が育っていくことを期待している。」、木曾官材野村理事長からは「この協定が意義あるものとなるよう地元の木材関係団体として最大限の協力をして参りたい」と決意が述べられ、立会人の畑中上松副町長からは「本協定は木材産業等の発展に対し意義ある協定であり、上松町としても卒業生が当町で就業できるような支援について取り組んで参りたい。」と祝辞をいただきました。

今後、本日の協定締結に基づき、地域材を利用する木工技術・技能を引き継ぐ多くの若者が、長野県上松技術専門校から羽ばたき、山村地域の発展につなげていくよう取り組んでいきたいと考えています。

森林整備協定を締結し 民有林と連携

〔岐阜署〕平成二十六年三月二十二日、下呂市役所において、「下呂市小坂町北東地区森林整備推進協定締結式」が開催されました。締結式では、岐阜森林管理署長、下呂市長、岐阜県下呂農林事務所長、(独)森林総合研究所 森林農地整備センター 岐阜水源林整備事務所長及び小坂町森林組合 代表理事組合長の五名により協定書への署名がなされました。



協定書を手にする代表者 (中央が森川岐阜署長)

た。

本協定は、平成二十二年九月に岐阜県と中部森林管理局において締結した、森林の持つ多面的な機能の持続的発揮及び木材の安定供給等を目的とした「岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書」に基づき、下呂地区初となる森林共同施業団地を設定し締結したものです。

本協定の目的は、民有林と国有林が連携し間伐等の森林整備や作業路網の整備に取り組むことで、林業の生産性の向上や林業事業者の育成・強化、木材の安定供給等の着実な推進を図り、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるとともに、下呂市小坂町の林業・木材産業の活性化に資することを目的としています。

この森林共同施業団地は、民有林二、四〇〇鈔、国有林二、八〇〇鈔 計五、二〇〇鈔で、国有林は五四%を占めています。

協定期間は、平成二十六年度から平成三十三年度までの八年間としています。

森林整備は保育間伐一〇〇鈔、搬出間伐三〇〇鈔を計画しています。

路網整備は、林業専用道三、〇〇〇メートル、森林作業道一、八〇〇メートルを計画し、路網整備に当たっては民有林と国有林を一体的に連絡・循環する効率的な路網整備を推進することとしています。

調印後の記者会見で、森川岐阜森林管理署長は「小坂町北東地域の林業、木材

産業の活性化に貢献したい。」、野村下呂市長は、「県内に大型加工施設ができて需要の高まりを感じる時、本協定は意義深い下呂市の林業再生に寄与するものと考えられる。」と挨拶されました。

この協定締結がゴールでなくスタートとして位置づけ、今後は、各機関と連携を密にし、協議を重ね森林整備の推進に取り組んでいきます。



「北信署黒姫森林事務所」

森林官 森田 直宏



国有林内での活動状況 (アフアの森財団)



生産と造林の一貫契約 (伐採状況)

黒姫森林事務所は、長野県上水内郡信濃町内の国有林を中心に約六、八〇〇鈔の森林を管理しています。

管理する国有林から生み出される水は、上水道や農業用水に利用され、地域の重要な水源林となっています。

また、「黒姫高原スノーパークスキー場」や「いづなりリゾートスキー場」の二つのスキー場に加えて、北信五岳の裾野を利用した森林セラピー基地「癒やしの森」など森林を利用した施設が多くあります。

平成二十三年度には、国有林に隣接する民有林で様々な活動をしている、アフアの森財団と「社会貢献の森における森林整備活動に関する協定」を締結し、国有林の森林整備などの活動が行わ

れています。

黒姫森林事務所は、北信森林管理署管内の中で生産事業が活発に行われています。平成二十五年度は、五件の生産請負事業があり、約一二、〇〇〇立方メートルの生産量がありました。

昨年度は、中部森林管理局管内で初めての取り組みとなる、主伐と植付の一貫請負契約を行い、コンテナ苗の植栽も実施しました。この事業では、信州大学と中部局が締結した協定に基づき、低コスト造林技術の開発、普及について調査研究を行っています。



生産と造林の一貫契約 (植栽状況)



収穫調査の様子

現在、黒姫森林事務所では、森林技術員と非常勤職員を含めて四名で境界巡検や収穫調査、分収育林の明認作業等、日々業務に汗を流し頑張っています。毎年度の事業計画を立てる際には、森林技術員等は現地の状況をよく知っていることから、適切なアドバイスをしてくれて非常に助かっています。
平成二十五年四月に赴任し、早くも一年が経過しました。昨年は森林官の業務をこなすのが精一杯だったので、二年目となる今年度は計画的に業務を進めていきたいと思っています。

新規採用者の紹介

どうぞよろしく
お願いします。



- ① 出身地
- ② 趣味・特技
- ③ 社会人になっての抱負

平成二十六年四月、五名の職員が採用となり、管内各署に配属となりました。
新規採用者の皆さんの抱負等を紹介いたします。

☆一般職



おおくやま あやな
奥山 綾菜
(富山署)

- ① 愛知県江南市
- ② 音楽鑑賞
- ③ 未熟な面が多くありますが、様々な業務や先輩方のご指導により社会人として成長していきたいです。



こやま きょうへい
小山 恭平
(飛騨署)

- ① 愛知県日進市
- ② 歩くこと、登山、動物園巡り
- ③ 私は高校や大学で林学を体系的に学んだ経験がないので、森林が雨水を吸収するように先輩方から多くのことを学ばせて頂ければと思います。



じょうない ゆうき
城内 優希
(中信署)

- ① 長野県小県郡長和町
- ② バスケケットボール、絵を描くこと
- ③ 同期・先輩・上司などたくさんの人達に支えていただきながら精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



のなか けいすけ
野中 恵介
(岐阜署)

- ① 福島県会津若松市
- ② 登山、サイクリング、ドライブ
- ③ 良い社会人になるために報・連・相を心がけ社会人として、人としての先輩である上司の方々を目指し、励んでいきたいと考えています。よろしくお願います。



こうけつ いつき
纈纈 樹
(東信署)

- ① 岐阜県下呂市
- ② 風景写真を撮ること(特に自然)
- ③ 明るく、前向きに、元気よく、この三拍子をいつも心に置いて頑張りたいと思います。よろしくお願います。



行事・会議等の予定

◎ 森林管理署長等会議
5月22日～23日 中部局



名古屋城

◆名古屋城の本丸御殿
愛知県名古屋市内に、日本百名城に選定されている名古屋城があります。築城は一六一〇年から行われ、天守閣の屋根の上にある金鯱(金のしゃちほこ)でも有名な、国の特別史跡に指定されています。この名古屋場本丸の天守閣南側には、かつて本丸御殿(一六一五年完成)があり、近世城郭御殿の最高傑作と言われ、京都二条城の二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の双壁となっています。

勇壮な天守閣と優美な御殿が並び建つ

ご当地自慢

名古屋城本丸御殿の復元

12

愛知森林管理事務所



天守閣

ことで、昭和五年に国宝に指定されましたが、第二次世界大戦末期の昭和二十年五月の空襲で双方とも焼失しました。その後、天守閣は昭和三十四年に再建され、本丸御殿も復元が望まれてきました。

◆本丸御殿の復元

平成二十一年一月、名古屋開府四〇〇年プロジェクトの一環として復元が始まりました。本丸御殿の歴史的・文化的価値を有するとともに、広く市民が活用できる財産となるように、工期を三期十年で総事業費一五〇億円をかけて工事が行われています。

復元の手法としては、焼失前と同等の

歴史的・文化的価値を有する建物を再現するよう、原則として旧来の材料・工法により行われており、木曾地方などで育った天然ヒノキが多く使われています。

構造階数 木造平屋建(書院造)

延べ面積 約三、一〇〇平方メートル

建築面積 約三、六〇〇平方メートル

主な部屋 玄関(謁見者の控えの間)

表書院(外客応接の間)

対面所(内臣対面の場)

上洛殿(将軍上洛時の宿舎)



本丸御殿

◆見どころ

工事現場は風雨から全体を守るため「素屋根」で覆われていますが、「素屋根」の内部には全体が見渡せる見学通路があります。また、工事現場すぐそばには見学コーナーがあり、窓越しに現場の様子を見たり、木についての学習や大工道具の見学もできます。

また、平成二十五年五月から、玄関と表書院が公開されています。御殿の室内は虎や豹、花鳥風月などを画材とした障壁画や飾金具などで豪華絢爛に飾られており、御殿の建物全てが美術館のようです。

現在、本丸御殿公開記念として「名古屋城春まつり」が五月六日まで開催されており、特別観覧として玄関二之間へ入室できますので、この機会に是非ご覧になっては如何でしょうか。



本丸御殿の様子

アクセス方法

【公共交通機関】

地下鉄名城線

「市役所」下車七番出口より徒歩五分

【家用車】

名古屋高速都心環状線

「丸の内」出口から北へ5分